KAWASAKI COLLEGE OF ALLIED HEALTH PROFESSIONS

川崎医療短期大学

広報誌　No.95

蒼きふのう

特 集　**より良い授業を目指して**

- 実習着紹介
- 継灯式
- 平成28年度第3回公開講座
- 学歌収録／国体報告
- 学友会活動報告／くらしきフォーラム等
  川崎エコアクション
- インフォメーション

川崎学園祭の模擬店にて（撮影：看護科　池原 麗子）

― 特 集 ―
より良い授業を目指して

「授業」という言葉は、「教師が諸分野の知識、技能を生徒に習得させるために行う活動」（ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典）と説明されています。

教員は、教科の到達目標を達成するために、授業を通じて様々な内容を学生に伝えます。授業科目や回ごとに到達目標や教える内容は異なっているため、それぞれの科目やそれぞれの回に合った授業を展開する必要があります。教員は、授業内容をいかにうまく伝えるかを考え、最適な情報伝達の方法・手段を選択することが重要となります。スライドなどを使い視聴覚に訴える授業、体験を通した実践的授業、板書と話術を融合した授業など実践方法は様々です。

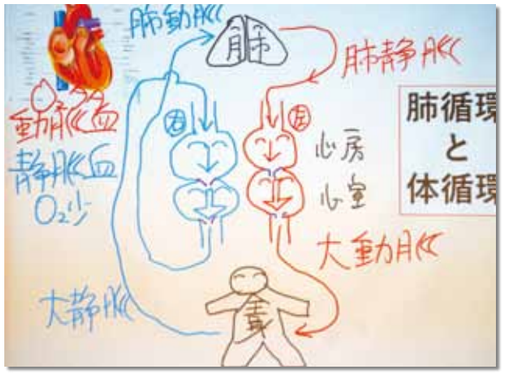
「習得させる」ということは、教師が一方的に知識・技能を与えるのではありません。与えた情報を完全に学生が理解し、身に付ける必要があります。しかし、学生が完全に習得することは、学生にとっても教員にとっても容易なことではありません。授業の方法や手段に創意を凝らすことは、教員の永遠の課題といえます。定期的に試験などを行い、「習得度」を教員と学生が確認し、足りない部分は補足的な授業や個人的な質問、指導で埋める努力も必要です。より良い授業には、教員と学生の信頼関係、相互協力も不可欠でしょう。

今回の特集では、より良い授業を目指して日々努力する共通教育担当の教員にスポットを当てました。学生による授業評価においても高評価を得ている教員です。執筆した先生方の「授業で工夫していること」「授業を通して伝えたいこと」をご覧いただき、本学の教育力を感じ取っていただければと思います。

人体の構造と機能

看護科　准教授
熊野　一郎
Kumano Ichiro

可動式の交連骨格模型で学習



学生とカラフルな図を描き理解を深める

① 授業紹介

「人体の構造と機能（解剖生理学）」では、医療・介護・保育を実践するために必要な基礎知識を学びます。病気、障害、動作の根拠を理解するため、体の構造（解剖学）と機能（生理学）の理解が必要です。それらは別々のことではなく、機能を実現するために構造が、構造が原因で機能（望ましくないことも）が存在する、という表裏一体の関係です。この講義で構造と機能を関連づけ、人体を理解していきます。

② 授業で工夫していること

「人体の構造と機能」で学ぶ範囲はとても広く、最初からやる気が失せてしまうことがあります。しかし、勉強を頑張っていくと、膨大な知識が相互につながっていき、意外なほど頭に入り、「使える」ようになってきます。そのきっかけ作りに何ができるかを考えて工夫しています。

そのためにまず「楽しさ」を伝えることに重点を置いています。学習は丸暗記が目的ではなく、学生自身が自由に理屈を考えて良いことを伝えます。そして、出席カードで質問や意見、思いつきを書いてもらい毎回確認しています。その結果、各科・各クラスで異なる興味に沿ったオーダーメイドの講義方針を立てることができ、学習内容や日常生活に結びつけながら学生にフィードバックすることで、学習が他の講義のみならず日常生活にも直接結びつくことを示します。

さらに深い理解のために、教科書では吸収できないことを伝える努力、特にビジュアルや動作などで感覚にも訴えることを目指しています。講義ではペンタブレットを使用し、パワーポイント画面に直接書き込みますが、複雑なことは学生と一緒に図を描きます。加えて、交連骨格模型、感覚的な表現、擬人化および身体表現も説明に多用しています。

しかし一番大事なことは、教える自分自身が楽しいと思うまで理解のレベルを上げること、それを学生に伝えたいという強い気持ち、そして先入観無く学生の成長を見つめることだと思います。そのためにも出席カードや質問などによる学生からのフィードバックは不可欠です。講義における工夫や知識の大半は、学生によって作られています。

③ 授業を通して伝えたいこと

人体の膨大な知識をつなげるのは大変です。しかし、完璧に理解しないと次の段階にステップアップできないということはありません。むしろ、実践で知識を使うことで人体の構造と機能を学習する意義が分かります。だから1年生の講義が終わってもいつでも戻って勉強してください。そしてその時こそが、人体を本当の意味で理解するときです。いつでも何度も行ったり来たりで理解を深め、成長し続けてください。

文章表現

一般教養　講師
見尾 久美恵
Mio Kumie

伝える能力としての文章力を身に付ける

今日の課題は、新聞記事の要約とコメント

① 授業紹介

日本語の規則や言葉のルールを理解し、実社会で求められる伝える能力としての文章力を身に付けることが、この授業の目標です。授業では、小論文やレポートなどの実用的な文章を作成します。課題に対して、データを踏まえて自身の考えを小論文やレポートとして書くことで、思考力や表現力が向上します。また、生きる力や世の中に当事者として関わろうとする意識、行動する力を自分で再確認できます。

皆さんの中には、小論文やレポートが苦手という方もいるでしょう。そこで、授業の前半では、新聞のコラムや記事、新書などの要約とそれに対する意見を書く練習、脳の力を引き出し自身の考えを図式的に整理するマインドマップの作成などを行います。「読む」「考える」「伝える」力を養い、文章の問題点に自ら気づけるようにしましょう。

もう一つの特徴は、短歌や俳句の創作授業です。専門職を目指す皆さんが、実習や日常生活で感じた思いを31音、17音で表現することで、他者を思いやる心を育み、言葉に対する感受性を磨くことが目標です。

② 授業で工夫していること

限られた時間の中で授業の目標を効率よく達成するために、皆さんの意欲を引き出し、文章力を高めていくことを常に考えています。例えば、就職活動の準備にもなる内容であること、医療人としてのあり方や人間性、倫理観について考えるきっかけとなる内容であることが望ましいと考えます。そこで、皆さんに書いてもらう小論文やレポートの課題は、これらの点を考慮して設定しています。

小論文の課題を自己省察から開始し、医療を取り巻く社会的な問題の考察、生に関する考察と進めていくことで、物事の本質を見抜くための考え方や判断力を身に付けましょう。医療における様々な問題の中から自身でテーマを設定して、解決策を論じられるようなレポートにも挑戦してもらいます。

③ 授業を通して伝えたいこと

これから先、実用的な文章を書く場面は少なくありません。実用的な文章の基本は、誰が読んでも分かりやすく、内容を正確に伝えられることです。一方、高度情報化社会では、より多くの情報を処理して、速やかに多くの文章を作成することも必要になります。「文章表現」の授業を通して、分かりやすい文章を読み手の立場になって書くことの意義を体得し、文章を通じたコミュニケーションをより上質なものにしてほしいと思います。

情報処理（Ⅰ・Ⅱ）

一般教養　講師
重田 崇之
Shigeta Takayuki

授業は専用の実習室で行われる

スクリーンはプレゼンテーションなどでも使用する

① 授業紹介

「情報処理」は、主にコンピューターリテラシーの育成を目標にした授業です。現代社会では、様々な場面において、パソコンや業務用端末などの情報機器を操作し、業務を行う機会があります。この授業では、情報の収集、保存、加工、そして発信といった一般的な情報処理の「流れ」を学習します。

「情報処理Ⅰ」では、タイピングの技術やOffice製品を操作した課題作成といったアプリケーションの活用、インターネットを使用した効率的な情報検索などの基本的なパソコンの操作に加え、近年重要視されている情報モラル・マナーを学習します。

「情報処理Ⅱ」では、「情報処理Ⅰ」で学習したことを応用し、より高度な課題に取り組みます。

② 授業で工夫していること

授業では、情報処理の流れの各ステップを身近に感じることのできる課題を設定しています。例えば、情報の収集であれば、「自分が過去に行ったことのない場所にある病院に実習に行く場合、どういった情報が必要になるか、またどのように検索するのか」など、学生が将来経験しそうなテーマを設定し、高いモチベーションで学習できるよう心掛けています。情報の発信であれば、プレゼンテーションにおける効果的なスライド作成方法の学習と合わせて、アクティブラーニングを取り入れています。学んだ知識を活用し、学生同士でプレゼンテーションの相互評価を行い、他者からの評価を意識した情報の発信を身に付けます。さらに近年では、SNSなどの普及を受け、情報の発信には非常に高いモラルやマナーが必要になっています。授業を通して、効果的な情報発信の技術だけでなく、情報モラルを意識できるよう、事例を含めた解説を行うようにしています。

③ 授業を通して伝えたいこと

スマートフォンの普及などで、以前よりも電子機器に慣れている学生も増えてきました。しかし、業務などにはタブレット型端末だけでなく、パソコンの操作も必要であり、社会に出てからは、ほぼすべての職種においてある程度のコンピューターリテラシーが必須とされています。いきなりパソコンのスペシャリストを目指す必要はありません。まずは、アプリケーションの基本操作に合わせてタイピングやファイルの管理、情報モラルなどの基礎知識をしっかりと身に付けることが大切です。そして、いざ高い技術が必要になったときに、新たなことにチャレンジできる力を身に付けておきましょう。

実習着紹介

川崎医療短期大学

実習着紹介

本学では、学科ごとに独自の実習着があります。学内演習だけでなく、学外実習でもこの実習着を制服代わりに着用します。

それぞれの実習着を身に着けることで、身だしなみなどの基本的マナーに対する意識も高まり、実習生としての強い自覚を持つようになります。

看護科

【白衣のマーク】

白衣の袖口には、医療短大カラーのグリーンで大学名が刺繍（しゅう）されています。式典の際には胸に学章をつけますが、普段は安全のためにつけません。

【実習着（特徴・歴史）】

男子学生の入学を機に、それまでの七分袖ワンピースの白衣から現在の半袖タイプに変更しました。その後、しばらくは女子学生用にはワンピースタイプもありましたが、現在では機能性を重視して、パンツタイプのみとなっています。また、実習先の川崎医科大学附属病院で2013年にナースキャップが廃止されたことに伴い、本学科でも着用を中止しました。

医療保育科

【エプロンの意味】

学科開設以来、ピンク色のチェック柄のエプロンを着用しています。ひらがなの名前やワンポイントの装飾は、学生各自で縫い付けを行い、保育に必要な裁縫技術の向上を図るとともに、子どもたちに親しみを持ってもらうためのアイテムとなっています。

【実習着（特徴）】

元気いっぱいの子どもたちの動きに対応するために、耐久性・伸縮性があり、軽くて動きやすいポロシャツとジャージを実習着に採用しています。ポロシャツには白、ピンク、水色の3色があり、ジャージは上下とも紺色で統一しています。左胸には大学と学科名が刺繍されています。

臨床検査科

【ワッペンの意味】

ワッペン中央には、ホールピペットと心電図の波形、顕微鏡のレンズが描かれています。さらに本学科の理念であるHSSC（Humanity, Sensibility, Skill, Cooperation）という4文字もデザインされています。

【実習着（特徴・歴史）】

学科開設以来、緑色の実習着を使用しており、学科内では実習着を「緑衣（ろくい）」と呼んでいます。現在のデザインは3代目です。

放射線技術科

【ワッペンの意味】

ワッペン中央には、原子物理をイメージした原子核と周回する軌道電子が描かれ、本学科の英名の略称であるRTが刻まれています。また、外枠には、初期のX線管（クーリッジ管）のデザインが採用されています。

【実習着（特徴・歴史）】

学科開設以来、本学科のイメージ色である青を基調としたケーシー型の実習着を使っています。通気性が良く速乾性、さらにアイロン掛けが不要という使い勝手の良い素材に最近変更されました。

医療介護福祉科

【実習着（特徴・歴史）】

学科開設以来、紺色を基調とした実習着を着用しています。平成28年度入学生からは、利用者さんの日常生活の中に溶け込みやすい色として介護や福祉の現場で多く着用されている、ベージュ色のスラックスに変更しました。また、食事介助用や排せつ介助用エプロン、入浴介助用のハーフパンツとTシャツも実習には欠かせません。そして、実習中に着用する靴は、足が疲れにくく着脱が容易なものを使用しています。

けいとうしき
継灯式～看護の道へ決意新たに～

平成28年度看護科の継灯式が11月5日（土）に本学200号大講義室で挙行されました。

「継灯式」とは、本格的な看護の学びへの一歩を踏み出した学生たち一人ひとりが、ナイチンゲールの灯火をいただき看護への誓いを新たにするセレモニーです。

継灯式に臨んだ看護科2年生133人は、多くの保護者らが見守る中、ステージ上で看護科主任の登喜 玲子教授からキャンドルを受け取った後、ナイチンゲール像の親火より灯火をいただきました。このキャンドルは、ナイチンゲールがクリミア戦争（1853－56年）で看護にあたった際、暗い病室にいる傷ついた兵士たちを、ロウソクの火のもとで見守ったことに由来しています。つまり、ナイチンゲール像から自分のキャンドルに灯火を移すことは、このナイチンゲールの「看護の精神」を受け継ぐことでもあります。そして、そのキャンドルの明かりの中で「ナイチンゲール誓詞」を唱和し、看護の道に踏み出す決意を新たにしました。名木田 恵理子副学長からは、看護師のあるべき姿や心構えのお話とともに、これから始まる実習に一生懸命取り組み、温かい看護を実践してほしいという激励の言葉をいただきました。次に、川崎医科大学附属病院　看護副師長の内田 康子さん（19期生）は、先輩からの祝辞として、学生時代の臨地実習の学習成果をまとめたファイルや看護師になって患者さんからいただいた手紙を紹介され、看護師の魅力ややりがいについてお話ししてくださいました。内田さんの「学生のまっすぐな感性でたくさんのことを感じて吸収し、悩みながら自分の看護観を深めてほしい」というエールに、学生も感銘を受けました。最後に、学生を代表して中村 舞菜さんが「これからも看護の知識・技術の習得に励み、命を預かるという責任感を持ち、患者に寄り添えるよう日々精進していきます」と力強い決意を表明し、式は無事終了しました。式典後は、さわやかな秋晴れのもとで記念撮影を行いました。

医療の高度化に伴い、看護師には高い知識や技術力が求められています。一方、病院や診療所だけでなく、介護施設や訪問看護など、看護師の活躍の舞台は多様になっています。時代とともに看護師の役割も少しずつ変化していきますが、変わらないのは「看護の心」です。これからも心に「看護の灯」を絶やすことなく頑張ってもらいたいと思います。

（看護科　松本 佳代子）

平成28年度 第3回 公開講座報告

発達障がいのある子どもへの支援
―意味あるやりとりを目指して―

重松 孝治　医療保育科　講師

平成28年10月8日（土）に第3回公開講座（主幹：医療保育科）を開催しました。
他者とのコミュニケーションの困難な発達障がいのある子どもたちとやりとりを進めるために、適切な伝達方法について学びました。

コミュニケーションとは

コミュニケーションとは、「キャッチボール」に例えられるように、他者との知覚・感情・思考の伝達のことをいいます。コミュニケーションの支援にあたっては、コミュニケーションを受容性コミュニケーション（メッセージの理解・受容）と表出性コミュニケーション（メッセージの表現）に分け、それぞれの支援について考えることが必要です。

受容性コミュニケーションの支援（伝え方の工夫）

発達障がいのある子どもは、衝動性が高く、不注意な面があり、他者の気持ちを読み取ることが苦手であることなどから、相手からのメッセージを正しく受け止められないことがあります。そのため、図のように子どもに正しく伝えるためのいくつかの工夫があります。

1.伝え方の工夫
- 簡潔な伝達
- 具体的な表現
- 肯定する機会
  - 成功体験を持てるように
  - それ自体がメッセージを伝える機会にもなる
- 肯定文で伝える
  - 禁止の裏にあるとるべき行動を伝える
- 順序立てて伝える：関係性や順序の整理
- 視覚的な方略の活用

「肯定文で伝える」ことは、相手の意図が読み取りにくいASD（自閉症スペクトラム）の子どもへの配慮として必要になります。ASDの子どもは、想像性の障がいにより、何かを禁止するように言われても、その代わりにどう振る舞うべきかが分かりません。結果として同じ行動を繰り返さざるを得ない状況となり、周囲からは、その様子を「こだわりが強い」と表現されてしまいます。こうした場合には、「～しません」（禁止文）ではなく、「～しましょう」（肯定文）ととるべき行動を伝えることで、適切な行動をしやすくなります。

表出性コミュニケーションの支援（子どもの側からの発信を育てる）

子どもからの発信はその方法を中心に考えましょう。発信の手段には、口頭言語（ことば）だけでなく、ジェスチャーやカード（絵や写真、文字）、AAC（補助代替機器）によって音声を機器から表出する方法、サイン言語（手話のようにルールが定められたジェスチャー）などがあります。大切なことは、言語表出の有無だけでなく、子どもの発達や特性に応じた表現手段を子どもたち自身が持つことです。また、ASDの子どもたちの場合、本人の話した内容を絵や図に示していくことで、最後まで整理して会話を続けることができるようになります。

このように、障がいを持つ子どものコミュニケーションの受容と表出を支援することにより、子どもたちは周囲から何を求められているかを理解し、さらに、自分の意図を受け止めてもらえるという経験が増えます。子どもたちが安心して生活できる環境を整えるために、コミュニケーション面の支援を大切にしていきましょう。

【学歌収録】
医療保育科 2年次生が歌う

現在の学歌「若きいのち」は、昭和63年に生まれました。お気づきの方もあると思いますが、本広報誌名「若きいのち」はこれに由来しています。作曲は、岡山・香川で多くの学校の校歌を手掛けた新田 左武郎氏、作詞は、全国的に知られた赤磐市出身の詩人永瀬 清子氏です。医療・福祉の担い手を目指す若者の姿が格調高く歌い上げられている名曲といえるでしょう。ただ残念なことに、学内機器で録音されたため音質が悪く、入学式、卒業式などで流されるたびに再収録を要望する声が上がっていました。

このたび、協助会の支援によって、専門業者による収録が実現しました。「若きいのち」には学生による合唱がふさわしいということで、医療保育科2年次生に呼び掛け、15人の学生で収録に臨みました。15人の「歌姫」は　8月末から練習を続け、11月13日（雑音が入らないようにと日曜日に）、音響会社の専門家が来学して収録を行いました。歌唱指導の伊達 希久子先生、ピアノ伴奏の青井 則子先生、移調作業を担当してくださった西崎 大修前教務課長代理の見守る中、歌姫たちは、一人1本のスタンドマイクの前で、何度もはつらつとした歌声を響かせてくれました。今回収録した学歌は、編集作業を経て、今年度卒業式には披露されることになります。医療保育科歌姫たちの「若きいのち」を楽しみにしていてください。

（副学長　名木田 恵理子）

東日本大震災復興の架け橋
第71回いわて国体に出場して

看護科1年　横田 和奏

第71回国民体育大会「希望郷いわて国体」（平成28年10月1日～11日）に成年女子ハンドボールの岡山県代表選手として出場しました。

私のハンドボールとの出会いは小学2年生のときです。始めたきっかけは、母が「スポーツをするなら地元で強い競技を」と勧めたことからです。ハンドボール人生の中で最も思い出深いのは、高校での3年間です。目標である全国大会ベスト4に向け、チームメイトとたくさんの壁にぶつかりながら、毎日苦しい練習に耐え努力しました。乗り越えるのが困難な壁もありましたが、大きな目標であった全国大会ベスト4を達成することができました。また、昨年の国体では、少年女子の部第3位という結果を残すこともできました。

現在、私は看護師の道を選び医療短大での学生生活を送っていますが、ハンドボールから離れることなく社会人チームに入り、勉強とハンドボールとの両立をしています。高校のときとは選手の年齢層や練習量が違う中、さらに上達したいという思いでコツコツと練習に取り組んでいます。その成果もあり、今回の国体の選手に選ばれました。あいにく今回は勝ちきることができず、残念な結果に終わってしまいましたが、次への課題が見つかり、新たな目標に向けて頑張っていこうと思います。

今回の出場にあたり、本学からご配慮をいただき、ありがとうございました。今回経験したことを生かし学生生活や日々の勉強も頑張りたいと思います。応援ありがとうございました。

学友会活動報告

研修旅行

学友会メンバーの団結力を高めるために、8月31日（水）から9月1日（木）の一泊二日で小豆島へ研修旅行に行ってきました。オリエンテーションでは、学年や学科の垣根を超えたチームを作って、バレーボールやドッジボールの対抗戦を行いました。そのため、これまでに話をしたことのなかったメンバーともコミュニケーションを図ることができました。

人数が多く、以前は一人ひとりとゆっくり話す機会がほとんどありませんでしたが、この研修を通してそれまで見えていなかった人となりを垣間見ることができ、このメンバーなら学園祭を無事に成功させることができると確信しました。

（臨床検査科2年　足立 菜々美）

清掃活動

川崎学園祭に向けて、学友会では10月1日（土）に学内や大学周辺の清掃活動を行いました。先生方と学友会のメンバーに加え、今年からは模擬店出店団体からの参加もお願いしました。当日は雨上がりで足下の悪い中、雑草やたばこの吸い殻、ペットボトルなどのごみを拾い集め、分別を行いました。清掃活動に参加してくださった方々には、心からお礼を申し上げます。

このような清掃活動を行うことで、地域の皆様や学内外の参加者の方々にも、気持ちよく学園祭に来ていただける環境になったのではないでしょうか。学園祭の前に限らず、普段から気がついたらごみを拾うようにすることで、いつも気持ちのよい大学であればと願っています。

（臨床検査科2年　平 真名）

くらしきフォーラム 介護の日のイベント

11月6日（日）に、「第12回くらしきフォーラム with AB－1コンテスト」（主催:倉敷地域自立支援協議会、倉敷市、早島町、川崎医療福祉大学）が川崎医療福祉大学において開催されました。このイベントは、地域の方に障がいの理解を広めるために、障がいのある方と地域の方との交流の機会をつくることが目的です。医療介護福祉科はフォーラムステージに参加し、手話歌（「トイレの神様」「365日の紙飛行機」）を明るく披露しました。

また、11月5日（土）には、「おかやま介護の日2016」（主催：岡山県社会福祉協議会）がおかやま未来ホールで開催され、11月6日の午後には、「11月11日（いいひいいひ）は介護の日」をPRするために、恒例の「介護フェア」（主催：岡山県介護福祉士会、日本介護福祉士養成施設協会岡山県支部）が岡山県総合福祉会館で開催されました。　（医療介護福祉科　辻 真美）

地球温暖化対策ワーキンググループだより NO.34

川崎エコアクション

気温を測ってみよう

本学の地球温暖化対策ワーキンググループのメンバーになり、はや8年が経過しようとしています。現在は責任者として、省エネ・省資源の推進と快適な学習環境の整備などとの調和に腐心しています。そのような中、何らかの新規な取り組みをしなければならないという強迫観念に駆られ、今夏の猛暑に対応する形で、屋外1カ所、教室・実習実験室9カ所、計10カ所の温度を、10分間隔で24時間測定するシステムを、IoT（Internet of Things）の勉強の一環として組み上げました。とりあえず8月1カ月間のデータを電子ファイルとして得ることができました。データを眺めていると様々な状況も把握でき、これからの空調管理に役立ちそうだと思っています。

まず、教室・実習実験室の温度が冷暖房・時刻・曜日・天候・季節によってどのように変化するかを把握することが、省エネ・省資源の出発点だとの思いで、今回のアクションを起こしました。

（放射線技術科　板谷 道信）

平成29年度AO入試前期・AO入試後期・推薦入試前期結果

ＡＯ入試前期
試験日：8月27日（土）　合格発表：9月2日（金）

	看護科	医療介護福祉科	計
募集人員	20	10	30
出願者数	69	3	72
出願倍率	3.5	0.3	2.4
合格者数	34	3	37

AO入試後期
試験日：9月24日（土）　合格発表：9月30日（金）

	看護科	医療介護福祉科	計
募集人員	10	5	15
出願者数	36	1	37
出願倍率	3.6	0.2	2.5
合格者数	17	1	18

推薦入試前期
試験日：10月29日（土）　合格発表：11月4日（金）

	看護科	医療介護福祉科	計
募集人員	40	35	75
出願者数	38	2	40
出願倍率	0.9	0.1	0.5
合格者数	37	2	39

主要行事（1月～3月）

1月	4日　仕事始め 20日　川崎学園防災の日 21日　医療保育科3年オペレッタ発表会 24日　看護科1年基礎看護学実習Ⅰ開始（～2/3） 〃　医療介護福祉科2年実習事例報告会 30日　一般入試前期・センター試験利用入試（学生は校内立入禁止）（～31）
2月	3日　医療保育科2年保育実習成果発表会 7日　一般入試前期・センター試験利用入試合格発表 22日　一般入試後期（学生は校内立入禁止） 23日　在学生健康診断（～24） 25日　医療介護福祉科公開講座 27日　一般入試後期合格発表
3月	15日　卒業証書・学位記授与式 20日　3施設合同オープンキャンパス

平成29年度一般入試（前期・後期）・センター試験利用入試日程

試験区分	願書受付期間	試験日
一般前期 センター試験利用	平成29年 1月5日(木)～1月17日(火)【消印有効】	〈A日程〉平成29年1月30日（月） 〈B日程〉平成29年1月31日（火）
一般後期	平成29年 2月7日(火)～2月13日(月)【消印有効】	平成29年2月22日(水)

国家試験日程

区分	試験日	合格発表
第106回　看護師国家試験	平成29年2月19日（日）	平成29年3月27日（月）
第 63 回　臨床検査技師国家試験	平成29年2月22日（水）	平成29年3月29日（水）
第 69 回　診療放射線技師国家試験	平成29年2月23日（木）	平成29年3月29日（水）

放射線取扱主任者試験 合格者

【第1種】
（放射線技術科3年4名、2年1名）
猪又 由衣　後藤 優治　丸中 絢太
山谷 晃平　宇山 友二

【第2種】
（放射線技術科2年6名）
川口 広誠　香西 知里　竹内 英志
七澤 千尋　平岡 瑞希　松原 章悟

【放射線取扱主任者とは】
放射線業務従事者や一般公衆等に対して放射線障害が起こらないように、放射性同位元素等の取り扱いについて監督を行います。一定数量以上の放射性同位元素等を使用・保管する施設では、この免状を取得した「放射線取扱主任者」を配置する必要があります。

川崎医療短期大学広報誌
「若きいのち」（95号）
2016年12月発行
編集発行：広報誌編集委員会
河邉 聡子（医療介護福祉科・委員長）
見尾 久美恵（一般教養・副委員長）
重田 崇之（一般教養）
沖田 聖枝（看護科）
黒住 菜美（臨床検査科）
天野 貴司（放射線技術科）
重松 孝治（医療保育科）
桑田 俊明（庶務課）
松井 美奈（庶務課・書記）
写真協力：二葉写真館
印　　刷：友野印刷株式会社
皆さんからのご意見・ご要望をお待ちしております。
〒701-0194 倉敷市松島316
川崎医療短期大学 広報誌編集委員会
電話：086-464-1032（庶務課）
Eメール：kouhou@jc.kawasaki-m.ac.jp
ホームページ　http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/

編集後記

今回の特集では、「より良い授業を目指して」と題し、共通教育の授業に焦点を当てました。先生方の授業に対する熱意や、学生に習得させるための努力、工夫が具体的に書かれており、他の教員にも参考になる内容だと思います。授業について特集したのは今回が2回目です。前号は、オープンキャンパスなどの催しでも配布し、高校生や保護者からも好評をいただきました。今回も前回に負けない魅力ある記事に仕上がったと思います。

実習着紹介は、在校生や高校生に未来の自分をイメージしてもらうための記事です。実習着を着て臨床実習に臨むことは、学生たちの目標の一つです。また、「いわて国体」に出場した看護科1年の横田 和奏さんに、今回特別にコラムを書いてもらいました。学業が忙しい本学において、スポーツでも活躍できる学生がいることを誇らしく思います。来年もぜひ出場を勝ち取ってください。

最後になりましたが、ご多忙中にもかかわらず、快く記事をご執筆くださった皆様に深くお礼申し上げます。

（天野 貴司）

既刊の「若きいのち」は、本学ホームページでご覧いただけます。